

やっと見つけた...♡

01. やっと見つけた...♡

▼街を歩くあなた

▼あなたとすれ違った少女(ユメ)、足を止め
「あ...」

▼おそろおそろ
「あ、あの...」

▼あなた、振り返る
▼ユメ、あなたの顔を見ると驚き
「...！ やっぱり...」

▼感情を抑えつつ、嬉しそうに
「やっと...やっと見つけた...」

▼ユメ、あなたの前に立ち
「あ...すみません、急に...声、かけて...」

▼あなた、知り合いだっけ？ みたいな感じの反応

▼自然な態度で
「いえ、知り合いとかじゃないです...初めて...見かけたので...」

▼そわそわしながら
「えっと...その...なんと言えればいいのか...」
「その...私...」
「今、貴方を一目見た時から...」

▼意を決して
「その...強い好意を抱いてしまったようなのです...」
「わかりやすく言えば、貴方が...好き...ということです」

▼間

▼驚くあなたを見て、嬉しそうに
「はい、言葉通りの意味です」
「私、どうしても...この想いを止められそうになくて...思わず、声をかけてしまいました」

▼あなたを見つめながら
「その...良ければ私と...その...」
「相思相愛の仲になっていただけないですか？」

▼あなた、微妙な反応

▼間

▼少しだけ寂しそうに

「そうですね...突然このようなことを言われても...戸惑ってしまいますよね」

▼早口気味に

「もしかして、騙されているのではないか...とか、何かの詐欺なのかも思ったり...しますよね？」

▼照れた感じで

「私としては、それは違うと言い切れるのですが...」

「信じることはできないですよ...心というものは、見えないものですから...」

▼困ったように

「はあ...困りました。どうすればいいのでしょうか？」

「だって...これはどう考えたって運命で...」

「私の中で貴方を諦める...という選択肢が無いんですもん」

「なので...少しだけ、強硬手段を取らせてもらいましょう」

▼あなたに近づき

「ふう...」

▼ゆっくりと

「私の目を...見ていただけないですか？」

「そうです...瞳を見て...まっすぐ、そのまま...」

「決して目を離してはいけません」

▼力(催眠)を使っているので声が漏れて

「んっ...ふう♡」

「体がふわふわしてきましたか？ いいですよ...その調子です♡」

「はあ...ふう♡」

「これくらいかければ...十分よね？」

▼嬉しそうに

「はい♡ では...そのまま...私の後ろをついてきてください♡」

「いいえ、違いますね...」

▼ユメ、あなたの腕に抱きつき

▼嬉しそうに

「行きましょう...♡」

02.悦ぶことは、全部知ってますから

▼ユメの力によって催眠をかけられ、ホテルに連れ込まれたあなた

▼運命の出会いを喜ぶように、ユメはあなたの唇をすする

「んちゅう♡ ちゅっ♡ ちゅう...♡ んう♡ ちゅっ...ちゅっ♡ ちゅう♡ んんう♡」

「ちゅう...ちゅぶっ♡ ちゅう、ちゅう...んっ...ちゅう♡ ちゅっ、ちゅうううう♡」

▼キスを終えて

「ぷはあ...♡ はあ...ふう...」

▼あなたの催眠が解けかけていることに気づき

「あ...ふふっ...♡」

▼ねっとり

「どうしました？ ぼうっとしちゃって...」

「ふふ...私とホテルに来たことが、不思議でたまらない...といった様子ですね」

「いいじゃないですか、そんな細かいことは気にせずに...」

「今は私との時間...楽しみましょう？」

「ほら、もっと...キス...しましょ？」

▼キス開始

「んっ...ちゅっ♡ ちゅっ、ちゅう...♡ んちゅう♡ ちゅ、ちゅっ♡」

「ふう、はあ...♡ ちゅう、ちゅっ...んっ...ちゅう♡」

▼自然とペロチューに移行

「ふあ♡ んう...ちゅう♡ れる...れる...れるちゅう...んちゅう、ちゅう...」

「れるれる、れるれるう、れろちゅう♡ ちゅぶっ♡ ふう♡ んちゅう♡」

「れるれる、れるれる、れろれりゅ...れりゅちゅう、ちゅう、んっ♡ ちゅううう♡」

▼キスを終えて

「ぷふう...」

「はあ、ふう♡ そんな激しく、求めてくれるなんて...嬉しいです」

「ん？ 今のキスは...何も、細工などしていませんよ？」

「ふふ...貴方が望んだから、私は舌を絡ませたんです...」

「本当ですよ？」

「ほら...私は...こうして、顔を近づけているだけ...」

▼妖しく微笑む感じで

「貴方は...どうしたいですか？」

▼あなたの目を見つめながら、期待した表情で

「ふう...ふう...」

▼あなたがキスをしたいという表情になったのが嬉しく

「ふふ...」

▼1回だけ

「ちゅっ...」

▼そのまま止まらずキス

「ちゅっ、ちゅう...ちゅうう...んっ♡」

▼ディープキスへ

「んちゅう、ちゅうる、れる、れろお...んっ♡ んちゅ、ちゅう♡ れるれる...」

「れろれりゅう♡ はふう、ふっ...んんう♡ れるれる、れるむちゅう♡」

「ちゅるれるう...れるれる、れろれる...れるっ...ちゅうう♡」

▼顔を離して

「ふう...♡」

「ふふ、これでわかってくれましたか？」

「ここでのことは、全て貴方が望んでやっていることだって...」

「いいんですよ？ 貴方の幸せは私の幸せですし...」

「貴方が喜ぶことなら、なんだって...したいですから」

「それくらい...貴方のことを...愛しているのです♡」

▼照れながら

「ずっと...ずっと...この時が来るのを...」

「貴方と出逢えるのを、心待ちにしていたのですから...」

「ふふっ♡」

▼抱きつきながら耳元へ顔を移動させ

「ふう...」

▼囁き

「そろそろ...キス以外の事も、したくなってきたのではないですか？」

「わかりますよ...」

「言ったでしょう？ 貴方は運命の相手...」

「口で言わなくても、わかるのです♡」

「まあ、ここの反応を見れば...私じゃなくても、わかってしまいそうですが♡」

▼ユメ、あなたの股間を手でさすり

「ふう、ふう...こんなにしてしまっ...」

「苦しそうですね...」

「ふふ、手で擦られたせいで...反応して...」

「より、窮屈になってきたのではないですか？」

「なら...楽にしてあげないと...♡」

▼ユメ、あなたのズボンのチャックをおろし、性器を露出させる

「ふふ...♡」

▼ユメ、あなたの股間を見て

▼興奮した様子で

「はあ...ああ♡」

「貴方の一部ですし、当然ではあるのですが...」

「とても立派で...愛おしいです♡」

▼あなたの男性器を撫でながら

▼愛おしそうに

「はあ、はあ...♡ ふう、ふう...」

「ふふ、温もりを感じます...」

「このまま...貴方の感触を、楽しませてください♡」

「ふう、ふう...はあ、ふう...」

「力加減は、いかがですか？」

「せっかく触らせてもらうのですから、悦んでもらいたいのです♡」

「ですので、貴方に感じてもらえるよう...私、頑張りますね♡」

▼あなたが反応しているのが嬉しくて

「ふう、ふう...ふふ...」

「答えなんて聞かなくても、大丈夫みたいですわね」

「とろけた顔をして...とても可愛らしいです♡」

▼話しながら、顔を前に移動させ

「そんな顔をされたら...私...」

「ふう...ふう...」

▼キス

「んっ...ちゅう♡ ちゅう...♡ ちゅぷ、ちゅぱっ...んちゅ、んりゅりゅ...れるちゅう♡」

「ちゅう...ぷはあ♡」

▼股間が反応したので、嬉しそうに

「はあ、はあ...すみません♡ つい...愛おしくて」

「もっともっと...感じる姿...見たくなっちゃいます」

「なので...」

▼耳元に顔を移動させて

「ふう...ふう...」

「この...お耳を愛したらどうなるか...ああ...楽しみです♡」

▼息をふきかけ

「ふう～...♡ ふふっ♡」

▼耳キス

「んっ...ちゅっ♡」

「ちゅう、ちゅう♡ はあ、ふう...ふう～♡」

▼囁き

「ふふっ、ピクってした...可愛い♡」

「可愛い姿...もっと私に見せてくださ～い♡」

▼耳キス

「んちゅう、ちゅっ、ちゅう...ちゅっ♡ ふう、んっ♡ ちゅっ、ちゅう♡」

「真っ赤になって、食べなくなっちゃいます♡」

▼耳舐め

「はあ、はあ...ちゅう...ちゅう、れるる～♡ れるれる、れるる～♡」
「ふう、ふう、れるれる、れろれりゅ、れる～むちゅ、ちゅうちゅう...んふう♡」

▼激しめ耳舐め

「れるれる、れるれるれるれる♡ れるれお、れるれる、れるちゅう♡」
「んちゅう、ちゅ、れりゅれりゅ、れるれるれるるる♡ むちゅう♡」
「れお、れろお...れるれる、れるりゅ♡ れりゅちゅう♡ んう♡ れるうう♡」

▼耳舐めを終えて

「ぷはあ♡」
「ふうふう、ふふっ...」

▼男性器を見ながら

「激しく舐められてえ...ここもお反応しちゃいましたねえ♡」
「先っぽからお汁もこぼしてえ...♡ そんなに気持ち、良かったんですか？」
「そしたら、もっとも～っと舐めてあげますね♡」

▼耳舐め再開

「ふう、ふう...」
「んちゅう♡ ちゅう、ちゅう、れるれる♡ れるりゅ♡」
「んちゅう、ちゅう、れりゅれりゅ、れりゅ～♡ ふふっ♡」

▼耳舐めに合わせて手コキ速度も変えて

▼徐々に激しく耳舐め

「んう♡ れりゅれりゅ、れろれろれりゅ♡ んふう、れる、れるうう♡」
「れるれゅ、れろれちゅ、れるれるれろれろれるれえ～♡」
「れりゅれりゅれちゅれちゅ、ふう♡ れりゅれりゅれろれおれろれお♡」

▼長めの耳キス

「んっ♡ ちゅうううう♡」

▼手コキ速度も合わせてゆっくりにして

▼耳舐めを終えて

「ふう、ふう♡ はあ、ふう♡」
「すみません...ついつい、張り切ってしまいました♡」
「でも、貴方も...たくさん感じて...そろそろ限界が近いのではないですか？」
「ふうふう、どうでしょう？」
「このまま...私の手でしごかれて果ててくれてもいいのですが...」
「2人の出会いを祝う意味も込めて...」
「私に挿入...してみませんか？」

▼あなた、びっくり

▼間

「...ふふっ、もちろん、今貴方が想像した所へ...ですよ？」
「ふう、ふう...私も、貴方が感じる姿を見て...発情、してしまっているんです」

▼ユメ、あなたの手を取って自分の腹部に触らせ

「なので、ぜひ...ぜひ、熱々に熱くなったここに、貴方の性器を、挿入してください♡」

▼あなた、了承

▼ユメ、嬉しそうに

「...ありがとうございます♡」

「では、準備、しちゃいますね♡」

▼ユメ、スカートを脱ぎ始める

「ふう、ふう...」

「はあ♡ 脱いでいる姿を、貴方に見られるだけで...興奮が増してしまいます♡」

「ふう、ふう...♡ はい、準備...できました♡」

▼キス

「んっ...ちゅう♡」

▼ユメ、あなたをベッドに押し倒す

▼興奮した様子でベッドに上がり

「はあ、はあ...」

▼腰を動かしつつ

「んっ...！」

「ふふ、言ったでしょう？ もう、私も発情してしまっているって...」

▼腰を動かしつつ

「入口が触れるだけで...んう♡ ふう、ドロドロの愛液が溢れてきてしまうんです♡」

「もちろん、お相手が貴方だから...こうなるのですよ♡」

「はあ、ふう...んう♡ 気持ちいい...気持ちいいです...♡」

「はあ、入口に...当たってるだけなのに...♡ ふう、ふう...これが中に入ったら、一体どうなってしまうのでしょうか？」

「んう♡ んっ♡ んっ...ああ♡」

▼スマタを終えて

「ふう、ふう...すみません。先端だけを擦られるだけじゃ、貴方も切ないですよ？」

「そろそろ、腰...降ろして、入れちゃいますね♡」

▼ユメ、騎乗位の体勢で挿入

「んふう、ふう...♡ はあ♡ んんんう♡」

「中、に♡ 貴方のモノが押し入ってきてえ♡ んう♡」

「はあ、はあ...はあ...♡ ふふ、いかがですか？ 私の、中は...」

「んう♡ 貴方への愛で、熱く蠢いていると思うのですが...♡」

「ふふっ♡ 答えは聞かなくても、いいみたいです♡」

「では、もっと気持ちよくなってもらうために、動きますからね♡」

▼ユメ、腰の上下運動開始

「んう♡」

「ああ♡ ああっ！ んっ！ んう♡ あはあ♡ ああっ！ んっ！ んう♡」

「んう♡ ああっ！ あっ！ あっ！ んう♡ んふう♡ ふう♡ んう♡」

「ああ♡ 腰、動かすたびにっ...貴方の硬い物がっ...んう♡ 中を擦ってえ♡」

「んう♡ 気持ちいい...♡ 気持ちいいですう♡ はあっ、んっ、ああ♡」

▼快感で息を荒げながら

「はふう、ふうっ♡ ふう〜っ♡ んう♡ んっ！ んう♡」

「たまり...ません♡ んう♡ あああっ♡ んう♡ ああふっ、ふう、んう♡」

「ふふっ、貴方も...感じてくれている、ようですね♡」

「そんなに顔を真っ赤にされて...♡ もしかして、耐えているのですか？」

「そうですね...だって...あれだけ手でイジられて、感じた後ですもんね...」

「すぐに限界、来そうなんですか？」

▼優しく

「んう♡ でも、大丈夫ですよ？」

▼テンション上がっている感じで

「私の目、見てください♡ そうすれば...きっと、貴方は、まだまだ耐えることができます♡」

「んう♡ 限界ギリギリの状態で、ふうふう...ず〜っと快感を感じていられるように...♡」

▼ユメ、あなたの方に倒れ込んできて

「ふうふう...んう♡ おまじない、してあげます♡」

▼キス

「んっ、ちゅう♡ ちゅりゅ、れるれる、れろちゅう♡」

「れるれるれるちゅう♡ んちゅう、ちゅぶちゅるっ...ぷはあ♡ はあ、ふう♡」

▼再び動き出し

▼感じて

「んふう♡ ふうふう、はあっ！ んっ！」

「体勢を変えたからっ♡ でしょうか？」

「さっきよりも、より...いい所に当たるようになった気が、しますう♡」

▼しっかり感じて

「んう♡ ああっ！ あああ♡ はあ、んっ！ んう♡」

「大好き...ですっ♡ 愛してますっ♡」

「んう♡ もっと、もっと、この想い、伝えさせて、ください♡」

▼テンション上げながら

「そして♡ はあ、はあ...貴方の想いも、伝えてもらえると...んう♡ 嬉しいです♡」

「んっ...違いますね、貴方から、私に対する想いが無くても、いいです...」

「ただ...快感だけを、得てくれれば...今は、十分です」

▼冗談めかして

「それくらいの謙虚さは...持っていますから♡」

▼キス

「んっ♡ ちゅう♡ ちゅう、れるれる、れろれりゅ、れりゅちゅう♡」

「はあっ！ はあ...！ んう♡」

「はあ、はあ♡ んう♡ 中...震えちゃいますっ♡」

「気持ち良くて...貴方と繋がれたのが、嬉しくてえ♡」

▼感じながら

「はあ、ふう、んう♡ んああっ！ あっ！ あああっ！ んう♡」

「はふう、ふう...んう♡ んう♡ ふふっ...本当に、愛おしい...♡」

「もっと、もっと...素敵な姿...表情、私に見せてください♡」

▼ユメ、ピストン速度アップ

「んう♡ んあっ！ ああっ！ ああ！ んっ！ んう♡ はああ、あっああっ！ んう♡」

「ふうっ...ふう...♡」

「んう♡ 激しくこすられてえ♡ んう♡ もっと、もっと...感じてくれているようですね♡」

「中でえ...貴方の物が、ずっと暴れております♡」

▼嬉しそうに

「んう♡ ふう、ふう...もう、いつ射精してもおかしくない状況...になっていますね♡」

「そうでしょう？ んっ！ んう♡ はあ、はあ...はあ、ふう♡」

「ふふふっ...♡ では、そろそろ...貴方の子種を私の中にいただきましょうか？」

「目を、見てください♡ ほら、じーっと見て...」

▼あなたの顔を見つめながら顔を近づけ

「そのまま、そう...そのままあ〜♡」

▼キス

「はあむっ♡ んっ、ちゅう♡」

▼キスと同時にピストン速度を上げて

▼ユメ、感じながらピストン合わせの激しめキス

「んう♡ んちゅう♡ ちゅっ！ んう♡ ああっ！ ちゅっ♡ んう！ ああっ！」

「ああっ！ んっ！ ちゅっ！ ちゅう♡ ちゅうう♡」

▼キスを終えて

「はあ、はあっ！ んう♡ んう♡」

「ふふ、おまじない...解いちゃいました♡ ふうふう...」

「なのでえ...後は貴方の好きなタイミングで、精を放ってください♡」

「んう♡ もちろん私の奥に...♡ ですよ♡」

▼体勢を変えて

「はあ、はあ、んう！ 私...んう♡ 貴方の子種が欲しくて、たまらないんですから♡」

▼耳元で囁き

「なので、出して...出してください♡」

「我慢なんてしないで...？ 私は絶対、どけませんから...」

「初めて出会ったばかりの女の中に、貴方の濃厚な精を、全部全部...♡」

「出～せ♡」

▼あなた、射精

▼受け止めながら絶頂

「んう！ んんうう♡」

「ああっ！ 来た、来ましたあ♡ 熱いのがっ...ドクン、ドクンって...」

▼絶頂の余韻で感じながら

「んう♡ んんうう♡ ああ！ はああ♡」

▼幸せそうに

「ふう、ふう...ありがとうございます♡」

「たくさん、たくさん出してくれましたね...」

「ふふ、謝ることなんて、無いんですよ？」

「全て、私が望んだことなのですから...♡」

「貴方が私との時間を幸せに感じてくれるのならば...私にとってそれ以上に幸せな事なんてないんです♡」

「ふふっ...♡」

「ですから...また、私と過ごしてくれると嬉しいです...」

「貴方が望めば、すぐに会えるようにしておきますから...」

「これからも、よろしくお願いしますね♡」

▼含みのある感じで

「末永く...ね♡」

03.欲望をぶつけて

▼日をおかず、再びホテルにやってきたあなた達。

▼嬉しそうに

「ふふ...こんなに早く再会できるなんて...」

「この前、私だけが楽しんでいたのではないかと心配だったのですが...嬉しいです」

「...今日、貴方と再会したのは、偶然ではないですよ？」

「貴方が私と会いたいと思ったから、私は貴方の前に姿を現したのです」

「そう、約束したじゃないですか？」

「そういう仕組み...と言いましょ、そのようなおまじないをかけていたのです」

「ですから、貴方が私を求めているのを、知る事で...」

「貴方の前に姿を現すことができたのです」

▼あなた、よくわからない

▼間

「まあ、難しい話は後にしましょう」

▼あなたが興奮しているのを見て

「もう、我慢するのも難しい状態...のように見えますし」

「私も、そんな貴方を求めているのですから...」

▼ユメ、あなたに近づき

▼期待した感じであなたを見つめ

「ふう、ふう...」

▼激しめキス

「んう♡ んちゅっ、ちゅう♡ ちゅっ！ ちゅぶう！ ちゆる！ ちゅっ♡ んう♡」

「ちゅっ！ ちゅうう♡ はあ、はあ...んっちゅうう！」

▼激しめベロチュー

「れるれる、れろちゅう♡ ちゅっ！ ちゅぶっ！ ちゆるりゅっ！ ちゅっちゅぶあ♡」

▼キスを終えて

「んう、はあ、はあ...はあ...んう♡」

▼幸せそうに

「とっても、情熱的なキス...♡」

「ふふっ♡ 前回とは違った獣のような荒々しさを、感じます♡」

「貴方にそんな一面があったなんて...♡ もっと興奮してしまいます」

▼耳元に顔を移動させて囁き

「はあ、はあ...ほら、もっともっと荒々しく、私を求めてください♡」

「貴方の欲望、好きなようにぶつけてくれて...いいんですからね♡」

▼息を吹きかけ

「はあ、ふう〜♡」

▼いたずらっぽい笑みで
「ふふっ♡」

▼あなた、ユメの顔を強引に顔の前に持っていく
「あっ...♡」

▼激しめキス
「んう♡ んう♡ んちゅっ！ ちゅう♡ ちゅうう♡ ああっ♡ ちゅっ、ちゅうう♡」
「んう！ れるれる、れろっ、ちゅう♡ ちゅりゅれる...れおれる♡」
「んう♡ 激しい♡ れるれるう、れすう♡ んう♡ れるれる、れろむちゅう♡」

▼キスを終えて
「んう♡ はあ、はあ...ふふっ、いいんですよ♡」
「この体は、全て貴方のためのものなんですから...♡」
「胸を鷺掴みしたいならしてもいいですし...お尻も好きに触ってもらって構いません♡」
「んっ♡ 貴方の視線を見ていたら、やりたいこと、わかってしまったようで...」

▼ユメ、ネクタイを外しシャツを脱ぎ
「はあ、はあ...んっ...ふう♡」
「ふふっ、ほら...触りやすいように、全部脱ぎましたから...」
「貴方の、お好きなように...♡」

▼あなた、ユメを抱き寄せて再び唇を奪いながら体を堪能する
「んっ！ あっ！」

▼激しめキス
「んちゅっ！ ちゅう！ あああっ！ ああ♡ れるれる、れろちゅう♡」

▼あなた、胸を揉みしだき
「んう♡ 体、触られながらっ...んっ！ キス...♡ いいですう♡ ちゅう♡」
「れるれるう、んう♡ んっ！ ああっ！ れるれろ、れるちゅう♡」
「はあ...んう♡ そこ、強く掴まれるのっ...ん、気持ち...ちゅう♡ いいれう♡」

▼体を弄られながらキス
「んんう♡ れるれる、れろれりゅう、んっ！ んっ、んう♡」
「んう♡ んっ、んう♡ れるれる、れろ、はあ♡ れるれりゅ、んんう♡」
「はあ、はあ...♡ んう♡ れるれる、れお...んう！ んっ！ そこ...そんな触られたら...」

▼絶頂が近づながらキスして
「はあ、はあ...私、私い♡ んう♡ ちゅう、ちゅう♡」
「すぐに、果てて...しまい...ますう♡」
「れるれる、れろちゅう♡ んう♡ はああっ！ んああっ！ んちゅう！ ちゅう♡」
「んう♡ あああ、ふああ！ んちゅ、れるれる♡」

▼キスしながら絶頂

「んんう♡ んんう♡ んんう♡ んっ！ ああ、来る...気持ちいいのがっ...んっ！ 来てえ♡」

「んっ...んんんんん♡ あああっ♡ ちゅう、ちゅう、ちゅうう♡ んううう♡」

「んっ、れるれる、れるれりゅ、れろれろ...れりゅちゅっ、ちゅうう♡」

▼キスを終えて

「んう、はっ...はあ、はあ...んう♡ はあ、はあ...ふう♡」

「ありがとう...ございます...♡」

「すごく、激しくて...んう♡ 私にご奉仕するはずが...んう♡ たくさん、気持ちよくされてしまいましたあ♡」

▼あなたを見つめながら

「はあ、ふう...んう♡」

▼キス

「んっ...ちゅう♡」

▼キスを終えて

「はあ、はあ...ここまで、していただいたのなら...私も、応えないといけないですよ？」

「ふふっ...貴方の望みを、より満たせるように...」

「ふう、ふう...ほら、私の目...見てください♡ まっすぐ、まっすぐに...」

「今貴方がどうしたいのか...本心を...教えてください」

▼あなた、何かしらの返答

▼間

▼楽しそうに

「ふふっ...なるほど、なるほど...」

「獣のように、もっともっと激しく...したいのですね？」

「なら、加減ができないように、理性を弱めてしましましょう？」

▼耳元まで顔を移動させて

「はあ...はあ...」

「私の体は貴方のもの...貴方の欲をぶつけるためのもの...」

「私がどうなるかなんて、考えず、したいこと、してくださ〜い♡」

▼あなた、ユメをベッドに押し倒し

「んっ...！ あっ！」

▼あなた、荒々しくユメの服を掴む

▼ユメ、楽しそうに

「はあ、はあ...んっ！ こんな乱暴に...♡」

「力も強くて、抵抗できそうにないですね♡」

「はああっ...んっ♡ んんう♡ 激しいっ...♡」

「ふふ、前回の交尾が...忘れられないのですか？」

「なら...早速...」

▼あなた、手マン開始

▼感じて

「んっ!? んう、あっ! ああっ! んっ♡」

「はああっ! んっ! んう♡ あああっ! 乱暴に指で、いじってきてえ♡」

「はあ、んう♡ 挿入すればいいのに...そんな、んう♡ 中いじって、私を感じさせたいのですね♡」

▼感じて

「んう♡ あああっ! んっ! んう! んああっ! はあ、はあ...んう♡」

「これっ...んっ! ああっ! 性器を挿れられるのとはまた、違ってえ♡ んう♡」

▼絶頂が近づきながら

「あああっ! んああっ! ああっ! あふう、んっ、んああっ!」

「あ、そこ...そこ...いいです、気持ちいいとこ...んう♡」

「ああ、そんな、ゴシゴシってされたらあ...♡」

▼絶頂

「んう! んんんんんううっ♡」

「はふう、ふう...んう♡ あああ♡ んう♡ 指だけで、達して、しまいましたあ♡」

▼あなた、手マン再開

「んう、んんんう...!? ああっ...待って、待ってくださいっ...んう♡」

「今、イッたばかりで...ああっ! あっ! あっ! んんああっ!」

「敏感になってるから...んう! そんな激しく、されたらあ♡」

▼絶頂

「んんう...また、イク...イク...すぐ、んう...! イックウウツ!」

「んんあ...ああああ、えああっ...はあ、はあ...ああ...はあ...」

▼あなた、ズボンを脱ぎはじめ

▼絶頂の余韻を感じながら、嬉しそうに

「んうう、あああ♡ あっ♡ はあああ♡」

「すごく立派にしてえ...ふう、ふう...♡」

「そんなにしてくれているってことは...はあ、はあ...挿れたいんですよね?」

▼女性器を広げながら見せて

「んう♡ いいですよお♡ 貴方の指でイカされまくったここに...」

「もっと刺激が欲しくて仕方がない、私のおまんこ...につ...」

「獣のような、凶悪なおちんぽを...挿れてくださいっ♡」

「はあ、はあ...んう♡ ほら、ほら...ほ～ら...♡」

「はあ、はあ...」

▼あなた、挿入体勢

「あああっ! んっ! んうううっ!」

「はあ、ああっ...んっ! 入ってえ...♡」

▼少しだけ驚いた様子で

「んんう、イッた、イッたばかりだから...はあ、はあ...ふう...これっ...！」

「んう♡ この前よりも、貴方の感触が伝わってきます、すう...」

▼あなた、激しめピストン開始

▼感じて

「んう！ ああっ！ きやうっ！」

「んああっ！ ああっ！ んあっ！ ああっあっ！ はあっ！ んあ！ あっ！」

▼余裕を崩さないようにしつつ

「最初っからあ...は、激しいっ...んんう！ んですねえ...♡ んう♡ あああう！ んあっ！ んっ！」

「んあ！ そんな、中...ゴシゴシ、されたらっ...んんああっ！ ああっ！ あうっ！ んう！」

「私、私い...んんう♡」

「あああっ！ んああっ！ んうっ！」

「またすぐに、果てて...しまいそう...ですう♡」

▼快感に耐えながら

「んあああっ！ ああ！ ふーっ！ ふーっ！ んう♡ んう♡」

「んう、いいんです...いいんですよ♡ んう♡」

「貴方の欲を、全て...んう♡ あああっ！ ああっ！ んああっ！ ぶつけてもらえる...のがあっ♡」

「私にとっての、幸せっ...なんですからあ♡ んああ！ あっ！ んう♡ んうふう♡」

「はあっ！ はあっ！ んんう♡」

「たくさん、たくさん...あなたの想いをおっ...！ んうっ！ おおっ！ 私に、ぶつけて、ください♡」

▼あなた、激しめピストン

▼すごく感じて

「ふっ...んあっ！ おうっ！ んんっ！ んおっ！ んん...くふう...ふうっ...ふーっ...んう♡」

「あああう...んう♡ はあ、はあ...んう♡ あっあっ！ んあっ！ あふうっ...んう！」

「こんな激しい一面があるなんて...んう♡ はっ、あああっ...知りませんでしたがあ♡」

「貴方の事を、知れてえ...んんう♡ 嬉しいですよ♡ はあっ！ あああっ！ んああっ！ んっ♡」

「ほら、もっと...もっとぶつけていいんですからねっ...」

「腰を打ち付けるだけじゃなくてえ...んう♡ ふう、ふう...胸、乱暴に揉みしだいてもいいですから...♡」

「ほら、貴方の動きに合わせて、ぶるんぶるんって揺れてる胸...んう♡ これを好き勝手に、弄りたく、なりませんかあ？」

「きっと、貴方の中に眠る、支配欲をっ...おおうっ...満たせると思いますよ♡」

▼あなた、胸もみ開始

▼感じて

「んっう♡ はあ、ふう...んああっ！ おうっ！ んっ！ きやっ...ふううんっ♡」

「そんなに、力強く...♡ んう♡ ああっあ♡ ああっ！ んあ！ はあ、くうっ♡ んう♡」

▼感じながら、嬉しそうに

「いいですよ...これ、んう♡ あああっ！ 貴方の欲を感じられてえ♡ あああっ！ はあ、はああ...んああっ！」

「もっと、もっと、したいこと、全部、全部、ぶつけてください...♡」

▼あなた、倒れこみ

「んんう！ あああっ！ んああっ！ ああっ！ んう♡ あああっ！ んくう♡」

「んう♡ はあ、はあ...あああっ！ そんな、覆いかぶさられたらあ♡」

「ふう、ふう〜っ♡」

「んんう♡ お腹の中あ、振動...んう♡ もっと、ズン、ズン...って、伝わってえ♡」

▼突かれた時に自然と声が出てしまう感じで

「あああ♡ はあ、ふう...んう♡ んぐう♡ ぐっ♡ おおっ♡ んおおっ...おう、ふう♡」

「はあ、はあ...んう♡ はっ、はっ...ふう♡ んうふう♡」

「ふふっ、中でえ♡ 膨らんで、きてえ♡」

「そろそろ...出そう...んう♡ なんですねえ♡」

「はあ、はあ、いいですよお♡ この前、みたいにつ...たくさん、中に...貴方の精を...吐き出して、ください♡」

「はああうっ！ ふう、んう♡ はふう♡ ふっ！ ふっ...！ んああ♡ んう♡」

「はあああ♡ はあっ！ はっ！ はっ！ んう♡」

▼あなた、激しめピストン

▼感じつつ

「あああ...！ 激...しい♡ んう♡」

「ください、くださいっ...んう♡ 全部、全部全部全部っ...んう♡」

「貴方のものを...私の中にい...」

▼キス

「あああっ！ ああっ！ あふう...んう、んちゅう、ちゅっ、ちゅう♡ んんう♡」

「れるれるれるりゅっ♡ んっ！ ふうふっ...んちゆるりゅれるりゅ♡」

「ふうう♡ ふうっ...んふう、ふう、ふう、ふっ...」

▼キスしながら絶頂

「んっ！ んうううううっ！」

▼射精音バックにキス

「んう、んちゅう、ちゅう、れりゅれりゅ、れるれる、はあ、はあ...！ れろれろ、れるれろ、れるちゅう♡」

▼キスを終えて

「んう♡ はあ、はあ...ありがと...ございましたあ♡」

▼満足そうに

「んふふ、たくさん動いて、疲れたのではないですか？」

「いいですよ、そのまま...ゆっくり休んでもらって...」

▼少しでも体力を消耗したので息を吐きつつ

「はあはあ...ふふっ、色々と溜まっているのかなと思い...」

「貴方の欲望を解放してみたのですが...これは、んう♡ なかなか、でしたね♡」

「普段の生活で色々と辛いことも多いのでしょうか？」

「そんな時は、私のことを頼ってくれて、いいのですからね。」

「私は貴方の望みなら、なんでも応えますから♡」

▼あなた、なんでも？

▼間

▼嬉しそうに

「はい...なんでもです♡」

「それくらい...貴方の事を、愛しているのですよ？」

「言葉では、どこまで伝わるかはわかりませんが...」

「貴方は、私がやっと見つけた、運命の人なのです...」

「なので、これから、私の事...頼ってくださいね♡」

「貴方が私を望む時を、ずっと...ずっと、待っています」

04.あなたが私を求めれば

▼朝、あなたが目を覚ますとユメがフェラをしている

「んっ...んう♡ んじゅ、じゅぶじゅぶ、じゅぶじゅぶ、じゅりゅじゅぶ...♡」

「んふう♡ じゅぼ、じゅぶ、じゅぶじゅりゅ...じゅぶぶ...じゅぶっ、じゅちゅう♡」

「んう♡ ふう、ふう♡ ん～...ぷはあ♡」

▼目覚めたあなたに気づき

「ん...♡ おはようございます♡」

▼あなた、何？ 的な反応

▼間

▼質問の意図がわからない感じで

「...はい？」

「ここは、貴方のお家...ですが？」

▼どうしてここにいるの？

▼間

▼不思議そうに

「どうしてここにいるのか...ですか？」

「それはもちろん...貴方が、私を望んだから...じゃないですか♡」

「貴方が私を求めたから、私はここにいるのです」

「理解、できますかね？」

「もっとわかりやすく伝えた方がいいのでしょうか？」

「となると...」

▼妖しく微笑んで

「おまじない...と言うのが一番近いのかもしれませんが」

「すみません...これ以上はうまく、伝えられないのです...」

「とりあえず、そういったものだと思ってください」

「では、続き...はじめちゃいますね？」

▼いたずらっぽく

「ふふ、駄目ですよ？ 起きようとしたって...」

「今話している間に、もう1つ、おまじないをかけておいたんです」

「体がうまく動かせなくなるような、おまじないを...ね♡」

「なので、今は...私の奉仕を受けて...欲望を吐き出してくれば、それでいいのです」

▼フェラ

「はあむっ...♡ んちゅう、ちゅう♡ れるれる、れろちゅう♡ んちゅう♡ ちゅぶう♡」

「ちゅっ、ちゅう♡ れるれる、れるれろお～」

「んふう♡ ここ、舐められると感じてしまうようですね♡」

▼楽しげに

「なら、入念に～♡ れるう、れるう、れるれる...れるりゅう～♡」
「ふう、ふう...♡ れろれろ、れるりゅ～♡」
「んふう♡ もう、先っぽからお汁が出てきてますねえ♡」
「れるれる...ほ～ら、こうやって先を舐めたら...んっ、とろとろのお汁が舌にくっついてえ...」
「ふふっ...可愛い...♡」
「で～は、そろそろ...」

▼体勢を変えて

「んっ...ふう、はあはあ...」

▼服を脱ぎ

▼楽しげに

「ふふ、胸も使って、気持ちよくして差し上げようかなと...」
「こういうご奉仕も、きっと気持ちいいと思ひまして...♡」
「れるう～♡ ふう...」
「こうして...唾液で滑りやすくすればあ...んっ...♡ 動きますね♡」
「んふう、ふう...はあ、ふう...ふう、ふう...はあ」
「どうですか？ 気持ちいいですか？」
「ふう、ふう...はあ、私は...なんだか興奮してきちゃいました♡」
「だって、貴方から出た粘液が、私の胸に染み込んでくる気がして...」
「貴方を、取り込んでいるような気持ちになるんですもん」
「はふう、ふう...ふふ、それに、こんな音が鳴るなんて...知りませんでした」
「貴方と私の体液が絡み合う音...です♡」
「はあ、はあ...ふう...もっと、もっと...刺激、与えていきますからね♡」

▼パイズリフェラ開始

「ふうふう...んっ♡ れるれる、れろむちゅう♡ ちゅう、ちゅう♡ んれろれろ...」
「れるれりゅ、れるうれう...んう、れる～♡ はふう、ふう♡」

▼愛おしそうに

「んりゅれる、れりゅれりゅ...れろちゅふう♡」
「んふ、ふう、んじゅ、じゅりゅ、じゅぶ、じゅぶ、じゅぼじゅぼじゅぶぶっ...ちゅう♡」
「れりゅれりゅ、れるれる、れろぶちゅう♡ んふう♡ じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ...」
「んふう♡ ふう...はあ、はあ...舐められて、もっと元気になってきましたね♡」

▼愛おしそうに

「お口で舐めると、粘液を垂らして...」
「胸で擦ると、ビクビクと震えて...」
「どちらも、とっても愛おしいです♡」
「はふう、ふう...んう♡ ふう、私も...興奮、しちやいます♡」

▼パイズリフェラ再開

「ふう、ふう...んっちゅう、れるれる、れるれりゅ〜...」
「れろれりゅ、んじゅぶぶ、んぐっぐう、ぐぶっ、ぐぶっ...れるる...♡」
「ぷふう...♡」
「ふふ、そろそろ...みたいですな♡」
「いいですよ...♡ このまま胸の中を出してしまっ♡」
「いいえ、むしろ...胸の中に出していただきたいです♡」

▼激しめに擦って

「愛する貴方の精液を...体で、受け止めたいのです♡」

▼勢いよく

「ですから、はあふう...さあ、さあ...出して、出してください♡」
「んふうふう、ふう、ふっ！ ふっ！ んう！ ふう、ふう♡」
「ほら、気持ちいいの我慢せずに、出して出して、出〜して♡」

▼あなたの射精が近いのを察して

「んう♡ 膨らんで、来てえ♡」

▼胸で受け止め

「んっ！ んんんう♡ 出たあ♡」
「んう、胸の中で...はあ、たくさん、びゅーびゅーって出てえ♡」
「はあ、はあ...ふう♡」
「んふふっ...見てください♡」

▼ユメ、胸を広げてザーメンブリッジを見せる

「胸の中、貴方の精液でいっぱいになっちゃいました♡」

▼妖しく

「はふう...貴方の濃い匂いが...昇ってきてえ♡」
「人の精液...子種...大切なもの...」
「こんなに頂けて...幸せです♡」
「でも...不思議です...」
「今日もこんなにたくさん...それに、過去に何度も頂いているのに...」
「私...もっと、もっと...貴方の子種が欲しくなっているんです...」
「ですので...ふふ♡」

▼あなたに近づき

「私の目、見てください♡」

▼おまじないをかける

「はあ...ふう...」
「はい、もう大丈夫です♡」
「ふふ、ちょっとしたおまじないをかけさせてもらいました...」
「射精を我慢すればするほど、快楽が大きくなる...そんなおまじないです」

▼いたずらっぽく

「あと...自分ひとりでは、射精ができなくなる...というようなものも、一緒にかけさせてもらいました♡」

▼耳元まで顔を移動させて

「ふう...」

▼囁き

「私は、1週間経ったら...また貴方の前に現れるので...」

「その時まで、我慢...してくださいね♡」

「約束を守ってくれたら、あなたのしたいこと...な～んでもしてあげますから♡ ふふっ♡」

「では、1週間後...お会いできるのを楽しみにしてます♡」

「...その日まで、私にしたいこと...たくさん考えておいてくれると、嬉しいです♡」

▼耳キス

「ちゅっ♡ ちゅう♡ ちゅう♡♡」

「れるれる、れる、れる、れろちゅう♡」

「ぷはあ♡」

「ふふっ...♡」

05.何度でも、求め愛

▼1週間後、あなたが帰宅すると部屋で待っているユメ

▼ユメ、あなたを出迎えて

「おかえりなさい♡」

「ふふ、部屋で待たせてもらっていました♡」

▼嬉しそうに

「無事禁欲生活...耐えられたようですね♡」

「では、約束通り...」

▼あなた、ユメを抱き寄せ

▼期待するように

「んっ...あっ...♡」

▼ベロチュー

「んちゅう、ちゅっ、じゅりゅちゅぷう♡ はふう♡」

「れるれる、れろちゅう、んじゅちゅうつ...♡ ちゅうう♡」

▼キスを終えて

「ぷはあ...♡ はあ、はあ、はあ...♡」

「獣のような口づけ...♡ ふふっ、もう限界みたいですね♡」

「いいですよお...♡ ちゃんと、おまじない...解きますから♡」

「目を見て...♡ そのまま、そのまま...」

▼ユメ、あなたにベロチュー

「んっ！ ちゅう♡ ちゅっ、ちゅぶ、ちゅりゅりゅ、れるれる...れろれちゅう♡」

「んちゅう、はあ♡ はあ、んう♡ れるれる、れるむちゅう♡ ちゅう、ちゅぶあ♡」

▼キスを終えて

「ふう、ふう...はい、これであなたはいつでも...射精、できるようになりました♡」

「溜め込んだ分、濃い精を吐き出せるようになっていますし...」

「その快感も、大きくなっているはずです♡」

「ですので、すぐ...すぐにでも...私の中に、挿れていいんですからね？」

▼ユメ、一歩下がり

▼あなたに見せつけるように服を脱ぎはじめ

「ふう、ふう...♡」

「んっ♡」

▼服を脱ぎ

「私も1週間、我慢したので...いつでも受け入れる準備、できています♡」

「だから、たくさん...たくさん...欲を解放してください♡」

▼あなた、ユメをベッドに押し倒し

「あっ...♡ んう♡」

▼あなた、ズボンを脱ぎ

▼あなたの様子を見ながら、期待した眼差しで

「はあ、はあ...はあ...ああっ！」

▼期待感たっぷり

「もうそんなにしてくれてるなんて...♡」

▼あなた、ベッドに上がり

「さあ、どうぞ...んう♡ このまま挿れてください♡」

「獣のように腰を振ってえ♡ 欲望を、満たしてくださあい♡」

▼あなた、挿入

▼感じて

「あっ...♡ んう、んああああっ！」

「あああ...最初から、中...掘られてえ...♡」

「ああっ...んう♡ んんんう♡ これ...私の方が、先に果ててしまいそう...ですよ♡」

▼あなた、動き出し

「ああっ!? んっ! んあ! ああ! はあ! ああ! んう♡」

「激しっ...んう♡ んんう♡ ああ! ああ! んう！」

▼快感に対して、声を抑えつつ

「んふうっ! ふうっ! ふああっ! あんっ! んああ! あっ! くう♡」

「あああっ! んう♡ あっ! あああっ! んあう! んう♡」

▼幸せそうに

「貴方の、はあ、っんくう♡ 欲が...んう♡ 私の中でえ...んう♡」

「たくさん、動いて...はあ、あああっ! 幸せ...んう♡ですよ♡」

「はああ...♡ はあ、はあ...んう、顔...顔を...んう♡ こちらに...」

▼あなたの首に腕を絡ませて

「キス、キス...しましょ♡ 貴方の唇...感じ、させてくださあい♡」

▼キス

「んう♡ んふう♡ はああ...♡ んちゅう、ちゅう♡ れるれる、れろちゅう♡」

「んちゅ、むちゅう♡ はふう、ふう...んう、れるれる...れるれちゅう...むちゅう♡ んちゅう♡」

▼キスしながら感じて

「むちゅぱあ...ああっ! あっ! んう♡ れるれる、れろれりゅう...ちゅぱあ...♡」

▼キスを終えて

「はああ...♡ あああっ...! 私...そろそろ、んう♡ 果てて...しまいそう...ですよ♡」

「はふう、ふう...んう♡ ああ...ビリビリってえ...体の中が、んう♡ しびれる感じが、してえ...♡」

「はふう、ふうっ...んう♡ ああ...すぐイクう...んう♡ イキ...ですよ♡」

▼あなた、ピストン速度アップ

▼感じて

「んふう、ふう...んう♡ んっ...！ きやうっ!？」

「あああっ！ そんな、激しく...されたらあ...♡」

「んう♡ んう♡ あ、ああ...もしかして、貴方も、なんですかあ♡」

▼ねだるように

「なら、一緒に...一緒に、イキ...ましょお？」

「中に、全部...全部...精を吐き出して、ください♡」

「んうっ！ ああっ！ はあ♡ はあああっ！ ああ！ んあ！ ああんう！」

▼ユメ、あなたを抱き寄せ

▼キス

「んう、ふう～っ...！ ふう～っ！ んちゅう、ちゅう、れるれる、れろちゅう♡」

「んちゅうふう...れるれる、れるれろお...んう♡ ふう、ふう...♡ んう！」

「らして...らしてくさい♡ んう、ちゅう...ちゅう♡ ちゅばあ...れるれる...れりゅう♡」

「らひて...らひてえ...れるれる、むちゅう♡ ちゅうう♡ らひてえ...♡」

「んう♡ んっ！ んっ！ んう！ イクう♡」

▼キスをしながら絶頂

「んう♡ ちゅうう♡ れりゅれりゅ、れりゅうう♡」

▼キスしながら中出しされるユメ

「んう...んんう♡ ふう、ふう...れる、ちゅう、ちゅう♡ ちゅうう♡」

▼キスを終えて

「ぷふう♡」

「んう♡ たくさん...お腹の奥の奥までえ...貴方の子種が、届いていますう...」

「あああ...ありがとう...ございます♡」

▼お礼のキス

「んっ...♡ ちゅう♡ ぷふう♡」

「んう♡ でも...まだ、まだ...おさまらない、ですよね♡」

「だって、1週間...溜め込んでくださったんですもの...」

「ですので...ふふ、起き上がってえ...♡」

▼あなたとユメ、起き上がってつながったまま座り

「はあ、はあ...ふう...♡」

「こうして、座っている状態で...貴方のをまた元気にさせちゃいます♡」

「んう♡ ふふ、私の中...こうして...きつくしてえ♡ んっ...♡」

▼耳元に顔を移動させて

「はあ、はあ...ふう♡」

▼耳キス

「はあ、んう、ちゅう♡ ちゅうっ♡」

▼囁き

「真っ赤になってる耳をお...刺激しちゃえば...♡」

▼耳キス～耳舐め

「んちゅう、ちゅっ♡ ちゅぷう♡ はあ、はあ...れるれる、れろちゅう♡」

「れりゅれりゅ、れる～っ...んりゅう～...れるれる、れろれぷう♡」

「奥の奥までえ...舌、ねじ込んでえ♡ れりゅれりゅ、れりゅれりゅ...」

「れるうう♡ んふう...れる、れる...れろれちゅう♡」

「んっ♡ んう♡ はあ、はあ...♡ また、元気になってきましたねえ♡」

「もう少し続けければ...きつとお♡ また、復活しちやいそうです♡」

「れるれる、れろれりゅ...んう♡ れりゅう、ふう、ふう...れろれろ、れりゅちゅう♡」

▼耳舐めしながら感じて

「んう♡ んう♡ ごめん、なさい...貴方のが反応して...私も、感じて、しまっぺ♡」

「ちゃんと、舐めないで、いけないのにい♡」

「んう、ふう...れるれる、れろれりゅう...れりゅれりゅ...♡」

「んう♡ ちゅう、ちゅう、ちゅうう♡」

▼囁き

「ふふっ...愛してます...♡」

▼耳舐め

「ちゅう、ちゅう...れりゅれりゅ、れりゅちゅうう♡」

▼囁き

「ぷふう...心の底から...貴方の、全てを♡」

▼あなたのが大きくなったので、感じて

「はあ、ふう...♡ んう♡」

▼正面に顔を移動させて

「ふふっ、すっかり元気に、なったみたいですね♡」

「では...このまま、2回目...始めてしまいませんか？」

「大丈夫です♡ もし貴方の体力が尽きそうになったら、私がおまじないをかけますから...」

「貴方のしたいように...動いて、ください♡」

▼対面座位でセックス開始

▼感じて

「ああ！ んう！ はああっ！ んう♡」

「んう！ んんう！ はあ、はあ...ああああ、うっ...んう♡」

▼幸せそうに

「んう♡ はあ、はあ...さっきの、んう♡ 激しいのも良かったですがあ♡」

「こうして、抱き合いながらするのも...んう♡ じわじわと快感が蓄積されるようで...ああっ！ ふう♡」

「好き、ですう♡ はあ...ああ...んう♡ んう♡ んう♡」

「あああっ♡ んう♡ んう♡ はあ♡ はふう♡ んう♡」

▼あなたの視線に気づき

「ふう、ふう～っ♡ んう♡ どうしたのですか？ 私の方を見てえ♡」

「ふふ、目が、気になるのですか？ んう♡ んっ♡ ああ...ふう♡」
「そんなことよりも、今は...んう♡ 気持ちよくなる事だけ考えましょう？」
「ほら、1度腰を動かすたびに、段々と、快感が...上がってえ...上がってえ♡」
「背中がゾクゾクとする感覚が、高まってえ...♡ 来る、来る...来る...♡」

▼妖しく、嬉しそうに

「んう♡ ふふっ♡ はあ、はあ...んう♡ また、中で...元気に、なりましたねえ♡」

▼感じて

「ふう、ふう...んう♡ ああっ！ んあっ！ んう♡」
「さっきとは違った場所が、こすられてえ♡」
「私も...んう♡ 感度...どんどん、上がってきてますう♡ はあ、はあ...♡ ああっ！ んう♡ ふああ♡」

▼顔を近づけ

「ふうふう...んう♡」

▼キス

「んちゅう、ちゅう、ちゅばあ...っ！ んちゅう、れるれる、れるちゅう♡」
「んう♡ はふう、ふあ、はあ...はあ...♡ 好き...好き...好き、ですう♡」
「んちゅう♡ れるれる、れるちゅう♡ 貴方を見つけられて...んう♡」
「本当に...良かったっ...んう♡ れるれる、れろれりゅ、れるちゅう♡」
「んちゅう♡ ちゅう...ちゅう...ちゅぶちゅりゅう♡」

▼あなた、ピストン速度変更

▼感じて

「んう！ んっ！ おっ！ んあ！ ふう...はっ！ あああ♡ ああ♡」
「動き、変わってえ♡ んう♡ んう♡ ああ...奥、ずん、ずんってえ♡」
「響く♡ んう♡ あああっ♡ ああ！ ふあ！ んう♡ ああう、ううんっ！」

▼ピストンで声が漏れ出る感じで

「んう♡ んああ...あう！ んおっ！ んお！ おっ！ んうふう♡」

▼絶頂が近づき

「ん、ああっ！ ああ！ んあ！ あああう！ んああ！」
「んう！ んっ！ これ...気持ちいいの、止まらなくてえ♡」
「これ...駄目ですう...また、私...私い...貴方より、先に...んう♡ 果てちゃうっ...んう♡」

▼余裕のない感じで

「んう♡ ああっ！ あっ！ んああ！ ああう♡ ふうあっ！ ああ！ んあ！ ああっ！ んあ！ あう♡ んう♡」
「ああ...イク...イクイクイクイク...んう♡」

▼絶頂

「イックウウ！ んううっ！ ああっ！ んんんんう♡」

▼あなた、動きを止めようとするが

▼あなたを止めるユメ

「んう♡ 動き、止めないで、くださいっ...♡」

「貴方が、気持ち良くなることが、大事、なんですからあ♡ はふう、ふう...んう♡」
「私の事は...気にしないで...んう♡ そのまま...そのまま、でえ♡」
「それにい...んう♡ 絶頂して、震えてる...中、絶対...気持ちいいと思います、からあ♡」
「動き、続けて、くださあいつ♡」

▼あなた、動きを元のスピードに戻す

▼強めに感じて

「あああ♡ んうっ！ んああ！ んう♡ んくう♡」
「はああっ！ あああっ！ んあ！ ああう！ んう♡」
「んうう...おおっ！ んあ！ おおっ！ んう♡ はあ、あっ、あっ、あああ♡」
「はふう、ふう...んう♡ んう♡ 中...大きくなってえ♡」

▼囁き

「んう♡ ふう、ふう～っ♡ そろそろ...2度目の射精...できそう、なんですねえ♡」
「んう♡ はあ、はあ...はい♡ はふう、ふう...ください、くださいい♡」
「また、私の奥に...貴方の子種を、全部...全部注ぎ込んでください♡」
「私はあ...貴方の全部が、全部が、ほしいんです♡」

▼あなた、スパートをかける

▼激しく感じて

「んっ！ んんう♡ あああっ！ あっあっ！ んあ！ おっ！ んう♡」
「あええああ...♡ はあ、ふっ...イク、イク...イク...んう♡」

▼囁き

「一緒に、一緒に...イキましょう...？ 一緒にイッてえ♡ 一番気持ちいい射精...しちゃいましょう？」
「んう！ んあ！ ああう♡ んう♡ ふう、ふっ...！ んう♡」
「んう♡ はあ、はあ...ほら...ほらほら...んう♡」

▼耳舐め射精煽り

「射精までえ...んう♡ さーんっ♡」
「んう、ふう、ふう...れるれる、ちゅう♡ にーい♡」
「んちゅう、ちゅうりゅりゅ、れっりゅりゅっ♡ いーっちい♡」
「ちゅう、んんっ！ んあ、はあ、はあ...んっ、ちゅう♡ ぜーえろおっ♡」

▼あなた、射精

▼膣内に精液を受け止めて

「んう♡ んう！ んああっ！ んううう♡」
「また、出て...んう♡ 熱いのがあ...ああっ！ 出て、来てえ♡」

▼絶頂

「あああ...っ！ んっ！ んふううう♡」

▼絶頂の余韻を感じつつ

「はあ、はあ...はあ...あああ...あああ...んう、はあ、はあ...はあっ...ふう、んう...♡」

▼幸せそうに

「んう♡ お腹の中...貴方の精で、一杯に...なってしまいましたあ♡」
「はあ...はあ...これだけいただければ...んう♡ 私も、満足...です♡」

「ありがとう...♡ ごさいました♡」
「はあ、はあ...んう、愛して、ます♡」

06.これから...

▼一通り行為が終わり

▼ユメはあなたが自分に対してどう思っているのか、その想いが本物なのかを知ろうとしてくる。

「はあ～...ふう～♡」

「んふっ、貴方にたくさん精を注いでいただいたおかげで、お腹の中が、タプタプしちゃってます♡」

「本当に、たくさん...愛していただきありがとうございました」

▼少しだけ決意を固めて

「はあ...ふう...」

「それで...そろそろ、貴方に伝えておかないといけないことが、あるんです...」

「いえ...本当は最初に伝えておかなければいけないこと、ではあったんですが...」

「私の正体...といいますか、私自身の事について...」

▼真剣に

「私は、人とは異なる存在なんです」

「どう捉えるかは、貴方にお任せしますが...人間という種族からはかけ離れた存在...というのが正しいでしょうか...」

「そして...私の種族が持つ力...この目には、他者の意思を自由に操る力があるんです...」

「貴方にも、何度かおまじない...としてかけていたのは、この目に宿った力によるものです」

「...驚かれましたか？」

▼あなた、どうして自分に声をかけたの？

▼間

「私が貴方に声をかけた理由...？　そうですね...」

「私は、人とは異なるもの...人ならざるものとして...この世の片隅で人になりすまして生きてきたのですが...」

「貴方を見た瞬間、恋に堕ちてしまったんです...」

「異種族であるはずのあなたに...です」

「こんな経験、今までなかったものですから...驚きました」

「でも、この機会を逃したら...また私は...」

「なので、多少強引にでも、今の関係を作り上げる必要があったのです」

「その上で、そろそろ...貴方の意見を、聞きたいなと...思いまして」

「このままだと、私は貴方に執着して...貴方の命を破滅させてしまうかもしれないと思ったものですから...」

「なので、貴方の本心を、聞かせてください」

「このまま、私と一緒に過ごして...愛を...欲をぶつけ合う関係になってもらえるか...」

「それとも、この関係を終わらせるか...」

▼真剣に

「貴方の考えを、教えてください」

「お願い、します」

07.【受け入れる】愛して、愛して、愛して

▼ユメの愛を受け入れた未来

▼あなたはユメと同棲を始めている

▼食事を終えたあなたに対して

「ん、お粗末さまでした」

「お食事は、口にありましたか？」

▼あなた、良かった的な返答

▼間

「良かったです♡」

「人がどんな味を好むのか、私はまだ、理解しきれていないので...不安だったんですが...」

「貴方の好みなら...これからも頑張っていけそうです」

「では...お食事も終わった所で...♡」

▼あなたに近づき

「今日も貴方の欲を...頂いてもよろしいですか？」

▼発情したように

「ふう、ふう...♡」

▼キス

「んっ...♡ ちゅう♡ ちゅう、ちゅう♡」

▼キスを終えて

「ぷふう♡ ふふっ...」

「この時間を迎えるのが、私にとって...一番幸せな瞬間です♡」

「受け入れてもらえたという事実を確かめることができますから...」

「そうだ...今日は貴方の望みを叶えるために...」

「特別な仕掛けを用意したんです♡」

「私の目、見てください♡」

「そうです、じっくり...そのままそのまま...♡」

▼楽しげに

「ふふっ、いいですよお♡」

▼ユメ分身A息ふきかけ ※同時に

「ふ〜っ♡」

▼ユメ分身B息ふきかけ ※同時に

「ふ〜っ♡」

▼ユメ本体、いたずらっぽく

「ふふっ、驚かせてしまいましたか？」

「貴方に悦んでもらえる為に...分身を用意したんです♡」

▼分身A

「こっちの耳は私が...」

▼分身B

「こっちの耳は私が...」

▼本体

「そして前は私が...」

「貴方を悦ばせるので、期待してくださいね♡」

※同時に

▼分身A 耳ふ～

「ふ～っ♡」

▼分身B 耳ふ～

「ふ～っ♡」

▼本体はキス

「んう、ちゅう♡」

▼ペロチュー

「ちゅう、ちゅう...れるれる、れろちゅう♡ んちゅう、ちゅう♡」

「んちゅう、れるれる、ちゅう♡ れろれろ、れるちゅう♡」

「ぷふう♡」

▼分身A

「はあ...はあ...耳真っ赤にしてえ...可愛い♡ ん、ちゅう♡」

▼分身A

「貴方はただ、快樂に身を委ねてくれればいいんですからね♡」

▼分身B

「はあ、はあ...ふう♡ そうです...とろけるような快感を一心に受けてえ♡」

▼分身B

「脳みそ、からっぽにして♡ 気持ち良くなったださ～い♡」

▼本体、キスを終えて

「んちゅう、ちゅう♡ はふう、はふう...♡ ふふっ...♡」

「このアイデアは、良かったみたいですね♡」

「顔、とろけちゃって...♡ とっても愛おいしいです♡」

▼本体、興奮した様子で

「それに...ここ...おちんぼも♡ もうこんなに固くしちゃってえ♡」

「精を放つ準備、できちゃったみたいですね♡」

「それならあ♡」

「ふう、ふう...」

▼ユメ、あなたのズボンを脱がし始める

「ふふっ...もう先っぽからお汁もたれ始めちゃってます♡」

「愛おいしいです♡」

▼分身A

「ちゅるる...んうふう...もう、挿れたくてたまらないんじゃないですか？」

▼分身A

「私の...本体のおまんこも...もう、出来上がっちゃってますしい♡ はあ、ふう...♡ んう♡」

▼分身B

「れるれる...今挿れたら、ぜ～ったい、気持ちいいですよお♡」

▼分身B

「私達も引き続き、耳舐め、続けますから挿れちゃいましょう♡ はあ、ふう～♡」

▼本体、照れながら

「んう♡ 準備、できてること...分身に明かされちゃうなんて...」

「少し恥ずかしいですね♡」

「でも...本当のことですから♡」

「私の出来上がったおまんこ...に♡」

「立派なおちんちんを...挿れて、くださあい♡」

▼ユメ、腰を上げて対面座位の体勢

「はあ、ふう...ふう♡」

▼期待感たっぷりで

「それじゃあ、挿れますよお～♡」

▼気持ちよさそうに

「んう、んっ！ ああああああ♡」

「んう♡ ふふ、やっぱり...いつもより♡ 固くて♡ いいです♡」

▼分身A

「んう♡ いいですね♡ 私も...挿れてほしかったです♡」

▼分身B

「でも、貴方が気持ち良くなってもらうのが、一番ですから♡ 頑張って、気持ちよくしちゃいますね♡」

▼分身の状態を満足気に眺めながら

「では、私も頑張りますね♡」

▼はじめから強めに感じて

「んう！ んう！ ああっ！ あっ！ んあっ！ んう♡ んう♡ はあ、はあ...ああっ！ んっ！ んう♡」
「あああっ！ んあ！ んう♡ これえ♡ んう♡ いつもよりも、掂げられてえ♡」
「貴方の愛...んう♡ いつも以上に、感じて、しまいますう♡」
「はあ、あああっ！ んあっ！ あっ！ んう♡ はあ、はあ...んうう♡」
「んう♡ はああ...ああっ！ 貴方も...私の愛っ...んう♡ 想い...んう♡ 感じて、くれて、ますかあ？」

▼気持ちいいので感情優先で

「んう♡ 好き、好き...愛...気持ちいい♡」
「んう、全部、全部、伝えたいですう♡ んあああっ！ 私の、全部う...♡」

▼本体、キス開始

「んう♡ ふう♡ んちゅう、ちゅっ♡ れるれる、れろれりゅう♡ むちゅう、ちゅう♡」
「ちゅりゅれる、れるちゅう♡ はふう♡ ふうっ...んう♡」
「んう♡ ふう...あああっ♡ ああっ！ んああう！ えあっ！ んう♡」

▼分身A

「もう、本物の私ったら...貴方を悦ばせるのを忘れて、自分が楽しんじゃってますねえ♡」

▼分身B

「そういう風になるのもわかつちやいますけど...♡」

▼分身B

「ふう、ふう...でも、貴方も楽しんでくれているようで良かったです♡」

▼分身A

「貴方の幸せが私達の幸せ、ですから♡」
「もっともっと、最後まで...気持ちよくしてみせます♡」

▼本体、快感でとろけきり

「あああっ！ んう♡ んう♡ はあ、はあ...ああっあ♡ ああええっはああんっ♡」
「はあ、ふう...んう♡ はあ、あああ♡ んう♡ んっ！ くう♡」
「はあふう、んう♡ 大きく、なってえ...来ました、ねええ♡」
「んう♡ 良いんですよ...貴方の好きなタイミングで出してえ♡」
「私...もお...そろそろ、限界...近いですからあ♡」
「中に...全部全部、吐き出してください♡」

▼ユメ、本気の腰振り

▼分身A

「はあ、ふう...んう♡ ほ～ら、出しちゃいましょ...♡」

▼分身A

「一番気持ちいい時に、一番気持ちのいいおまんこに♡」

▼分身A 耳舐め

「んちゅう♡ ちゅう、れるれるれるちゅう♡」

▼分身B

「ふう、ふう...♡ そうですよお♡ おまんこ...受け入れ準備万端みたいですから♡」

▼分身B

「全部、ぜ～んぶ吐き出しちゃってください♡」

「ちゅう...れるれる、れろぶちゅう♡ れりゅれりゅれりゅれりゅ♡」

▼本体、限界が近づき

「ああああっ！ んう♡ んうあ！ んおっ！ んう♡ んう♡」

「くだ...さい♡ 貴方の子種...全部、全部...一番奥にいくださあい♡」

「あああえ...！ んああっ！ あんっ！ んあ！ ああっ！ んう♡」

▼分身A

「出してえ、出してえ♡ あなたの濃厚精液...全部、全部出してえ♡」

▼分身B

「一番奥に、びゅっびゅっびゅ～って♡」

▼分身A同時に

「ほら、イク、イク、イク、イク...♡」

▼分身B同時に

「ほら、出る、出る、出る、出る...♡」

▼分身A

「びゅ～！ びゅ～！ びゅ～～～っ！」

▼分身B

「びゅ～！ びゅ～！ びゅ～～～っ！」

▼あなた、射精

「んう♡ あっ！ ああ！ んううう♡」

「あああ♡ 出てるう♡ 熱くて、ドロドロな精液があ...んう♡」

▼ユメ本体、愛おしさからあなたにベロチュー

「はあ、はあ...はあ...んっ、ちゅう♡ ちゅうう♡ れるれる、れろちゅう♡」

「ちゅう、ちゅう...ん♡ はあはあ...ありがとう、ございましたあ♡」

「貴方の愛、たくさんいただけて、幸せ、です♡」

「はあ、ふう...」

▼分身A

「とっても素敵な射精でしたよお♡」

▼分身A

「見ているこちらも、興奮してしまいましたあ♡」

▼分身B

「もう満足、しちゃいましたか？」

▼分身B

「もし、まだできそうなら...次は私達に精を注いでくれませんか？」

▼分身A

「夜はまだまだ長いですから♡」

▼分身B

「これからも...楽しみましょう♡ ね？」

▼本体

「貴方の望み、全て叶えますから...」

「何でも、おっしゃってくださいね♡」

「貴方の幸せが私の幸せですから...ふふ♡」

▼3人で同時に

「愛してます♡」

08.【受け入れない】死ぬまで、永遠に

▼ユメとの関係が終わらせようとして迎えた未来

▼あなたはユメに捕らえられ、無限に精を提供する精液タンクになってしまっている

▼騎乗位で精液を絞り出そうとしているユメ

▼自分の欲望を満たすための腰振りをしながら

「んう...んう♡ んう♡ はあ、はあ...ああ...んう♡ んう♡」

「んう、ふう...ふう...はあ、ふう...んう♡」

「はあう、ふう、ふう...んっ！ んっ！ んう♡」

「ああ♡ んう♡ ふう、ふう...ああ♡ んう♡」

▼あなたの方を見て

「んう♡ はあ、はあ...はっ！ ああっ...！」

「ふふっ...素敵な顔...もう気持ちよくてたまらないって感じじゃないですか？」

「でも、仕方ないですよね？ 感度...限界まで上げられちゃってますし♡」

▼いじわるっぽく

「んっ...でも、まだイッては駄目ですよお♡」

「だって、私が満足していないんですから♡」

「なんて...言っても、意味のない命令でしたねえ♡」

「出したくても出せないんですから♡ ふふっ♡」

▼本心ではない感じでわざとらしく

「はあ、ふう...んう♡ ごめんなさい...貴方が苦しむ顔は、見ていて、私も心苦しいのですが...」

「でも、仕方ないですよね...私を受け入れてくれなかった貴方が、悪いんです♡」

▼ピストン再開

「んっ、はあ、ふう...んう♡」

「心は離れていると知っていても...このおチンポは...最高ですねえ♡」

「んああっ！ んう！ 気持ちいい...です♡」

「はあ、ふう...んう♡ んう...くう♡」

「ふふっ...中で、ビクンビクンって震えてえ♡」

「イキたいのに、イケなくて...可哀想ですねえ♡」

「でも、私は気持ちいいですから...それでいいんです♡ はあはあ...あああ♡ んう♡」

▼腰を動かしながら

「あの日...私が貴方に告白をした日...」

「貴方に拒絶されたら、諦めようとは思っていたんですよ...？」

▼妖しく微笑んで

「でも、んう♡ 私、どうしても貴方の事が諦められなくて...」

「貴方に刻まれた快感が、忘れられなくて...♡」

「そしたら...んう♡ はあ、ああ...！ 仕方ないですよ？」

「貴方も、心は通じあっていないなくても、私の体は大好きなようですし？ はあ、ふう♡ んう♡」

「んう♡ 多少苦しいかもしれないですけど...んう♡」

「快感、刻みつけられるのは嫌じゃないでしょう？」

▼一度動きをとめ、あなたを見つめながら

「はあ、はあ...だから、どんどん快感をためてえ♡」

「早く...私との交わりしか考えられないお人形さんになっちゃってくださいあい♡」

▼感じて

「はふう♡ ふう♡ んう♡ んああっ♡ ああ♡ えああ♡ あっ！ ああっ！ んう♡」

「ああっ...そこ、いいですう♡ んう、もっと、ゴシゴシって、してえ♡」

▼テンションを上げて

「んっ...んう♡ あああっ！ ああ！ んおっ！ んっ！ んう♡ んう♡」

「はふう、ふう...♡ んう！ ああっ！ あっ！ んあ！ んう♡」

▼サドっけを出しながら

「はあ〜♡ その顔、たまりません♡」

「愛おしくて、もっと、もっといじめたくなくなっちゃいますう♡」

▼あなたの方に倒れ込んできて

▼顔を近づけ

「ふう、ふう...」

▼強引にキス

「んっ...ちゅう♡ れるれる、れろれりゅ、ちゅう♡」

「んっ、ほら...抵抗しないでください♡ れるれる、れるむちゅう♡」

「言う事、聞かないと...おしおき、しちゃいますから♡」

▼あなた、従うようになり

「んう、ちゅう♡ れるれる...れろちゅう♡ はふう、ふう♡」

▼キスを終えて

「んっ...おりこうさん、ですね♡」

「じゃあ、そろそろ...んう♡ 私も満足できそうなので...♡」

「射精できるように、してあげましょうか？」

▼妖しく微笑み

「はあ、ふう♡」

「今まで溜め込んできた快感を...一気に解放しちゃいますから♡」

「それじゃあ、いきますよお〜♡」

「はあ、ふう...んう♡ 目、見てください♡」

▼あなたを見つめながら

「ほ〜ら、そらさないで？」

▼あなたが抵抗するので命令口調で

「見ろ♡」

「うふふ、それじゃあ...イキますよお〜♡」

▼腰を動かしながら、顔を耳元へ

「んう、んっ♡ おまじない解放までえ〜さーん...♡」

「んうはあ、ふう♡ んう！ んっ！ はあ、はあ...ふふ、ムズムズしてきちゃいましたか？ ふふっ♡ に〜い...♡」

「ほら、もうすぐ、もうすぐでイけますからね〜♡ がんばれ、がんばれ〜い〜ち♡」

「んう...では、覚悟はいいですか...はあ、はあ♡ んっ！ んう！ んう！」

「ぜ〜ろ♡」

▼あなたの身に起きた変化を観察しながら、囁き

「ほ〜ら、んう♡ 溜まっていた快感が、全部解き放たれて〜♡」

▼射精命令

「出せ、出せ、出せ、出せ...」

「出〜せっ！」

▼あなた、射精

▼気持ちう良さそうに射精を膣内に受けて

「んっ！ んうう♡ はあ、あああ♡ んう♡」

▼起き上がりいいじわるっぽく

「はあ...ふう。ふふっ♡すごい顔...そんなに気持ち良かったんですかあ？」

「そうですよね？ たくさん出してくれましたし...」

「はふう...♡」

▼いいじわるっぽく

「でも、私...まだ足りないみたいで...」

「もっともっと、貴方の精...必要みたいなんです...」

「だから、このままもう1回...絞らせてもらいますね？」

▼ピストン開始

▼あなたを見ながら

「ほら、私の目を見てください」

「抵抗しても無駄ですよ♡ 貴方の体は、私が自由にできるようにしていますし♡」

「私が満足するまで...永遠に...貴方を離しませんから」

「そうです...永遠に...です」

「命尽きるその時まで、頑張ってくださいね♡」

▼喘ぎ声フェードアウトして終了

「んう...ああ、はあ...はあ...んう♡ んう♡」